



カムカムよってって



2025 年 6 月よってって在宅診療所

052-626-1215 E-mail:yottette-zaitaku @minami.or.jp

紫陽花の季節になりました。色とりどりで可憐な花を見かけますが、梅雨空は何処に。雨の季節はほどほどに降ってほしいものです。季節の変わり目は体調も変化しやすいので、ご注意ください。



訪問診療を利用し、自宅で最期まで過ごされる方が増えています。

先日、在宅での看取りを終えた患者様の自宅に、法人内の他事業所スタッフと一緒に訪問しました。患者様が亡くなられた時の様子やその後の気持ちを聴かせていただきました。介護ベッドを置いて過ごされたお部屋には、仏壇の中で鎮座する遺影、戒名のいわれを書いた説明用紙、花見の写真やひ孫さんとの写真など、様々なものが飾られていました。

ご家族は話をしながら涙を流されます。最期の呼吸を終える時、家族はその場に居られなかったようで、「様子を見に来たら呼吸が止まっていた」と、自分を責めているようでした。

最期の呼吸を終える時、家族が側に居ることはさほど重要ではないこと。旅立つその時は患者自身が決めます。その方の意思決定だと言えます。「その時」にどのような意味があるのかが重要ではないでしょうか。「今までありがとう」と安心して旅立たれたのかもかもしれません。旅立ち方は、患者から家族へのメッセージとも言えそうです。

そんなことを話しながら、ご家族の心が少しは晴れますようにと願いました。



医師：「数年前に訪問に来たことがある」 家族：「前も先生に家族を看取ってもらいました」

訪問診療を利用中の患者様とご家族から、「以前にも訪問診療で家族が診てもらっていた」と聞いていましたが、今回は違う医師が担当しました。

呼吸停止の連絡を受けて、その日の待機医師とお看取りに訪問しました。自宅に近づき、冒頭の医師の言葉です。そして、ご自宅におじゃまして、家族の第一声です。

偶然でしたが、亡くなられた患者様を前に、喜びの再会となりました。

これまでも、複数のご家族を訪問診療させていただくことがあります。懐かしい話もでき、関係性も瞬時に深まります。ご家族のその後を知ることができ、継続して介入することでかかりつけ診療所として喜びを感じる出来事でした。